I) 血中ホルモンの測定による先天性副腎過形成の病型鑑別

協同研究者 斎藤 喜親
 丹羽 利広
 中内 真佐子
 野々田 和

(目的) 先天性副腎過形成のうち早期から治療を必要とする食塩喪失型を迅速に診断したい。

(対象) 21-hydroxylase 欠損にもとづく6例の本症小児である。その内訳は食塩喪失型、単純男性型各3例ずつである。

(方法) 本邦において神戸川らが昨年開発した血中17 α -hydroxyprogesterone (17-OHP)、21-Deoxycortisol (21-DOF)、Cortisol (F) の迅速測定法(ホと臨投稿中)によった。

(成績) 本法による血中ステロイド比は表示のようで、両病型間に大きな差がみられた。

表 21hydroxylase 欠損にもとづく食塩喪失型と単純男性型の血中ステロイド比

ステロイド比	食塩喪失型 (n = 3)	単純男性型 (n = 3)
17-OHP / Cortisol	7.2 (1.9~14.1)	1.2 (0.6~1.4)
21-DOF / Cortisol	3.7 (1.8~4.9)	0.5 (0.2~0.7)

17-OHP : 17-hydroxyprogesterone

21-DOF : 21-deoxycortisol

(結論) 本法は微量の血液で短時間に3種の物質を測定することができ、その結果は本症の病型の鑑別診断に大きな価値を持つ。

Ⅱ) Cyproterone acetate(CA)による思春期早発症の治療

協同研究者 斎藤喜親他

(対象と方法) 対象とした患児は4例で、その内訳は特発性3例、症候性1例、性別は男児2例、女児2例である。CAは50mgを1日分2回経口的に投与し、性ホルモン関係を中心とした内分泌学的検査などを行うとともに肝機能、血液性状をチェックした。

(成績) 本剤には gonadotropin 分泌抑制とともに抗 androgen 作用があり2次性徴の一部(乳房縮小など)は本剤投与によって改善した。明らかな副作用は経験していない。観察期間が最長1年のため最終身長に対する効果はまだ明らかにしえなかった。

Ⅲ) DDAVPによる小児尿崩症の治療

協同研究者 中内真佐子他

(対象と方法) 対象とした患児は6例で、その内訳は特発性1、手術後2、Histiocytosis Xによるもの3、年齢は2~15才である。DDAVPは5~10 μ gを1日1~2回点鼻し、尿の量、流量、滲透圧などを検査した。

(成績) 本剤による治療は全例に有効で尿量は日常生活に障害を及ぼさない程度にコントロールでき、副作用は認めなかった。朝の投与に比べ夜間の投与の方が持続時間が長い傾向がみられた。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

(目的) 先天性副腎過形成のうち早期から治療を必要とする食塩喪失型を迅速に診断したい。